第７回アフリカ開発会議（TICAD7）横浜開催について（報告）

１　アフリカ開発会議（TICAD）とは

1993 年に日本が立ち上げたアフリカ開発に関する首脳級の国際会議

２　第７回アフリカ開発会議（TICAD７）概要

(1)　会　　期　令和元年8月 28 日（水）～30 日（金）
(2)　主 会 場　パシフィコ横浜
(3)　主 催 者　日本政府、国連、国連開発計画、世界銀行、アフリカ連合委員会
(4)　テ ー マ　「アフリカに躍進を！ひと、技術、イノベーションで。」
(5)　**会議のポイント**

・「横浜宣言 2019」を採択し、「横浜行動計画 2019」をその付属文書として発表。
・安倍総理から、対アフリカ民間投資が今後更に大きくなるよう、政府として全力を尽くす旨表明。
・TICAD 史上初めて、民間企業を公式なパートナーと位置づけ、日アフリカ官民の直接対話を実施。

３　会議実績

(1)　**参加者数等**

	国数・件数等		人数（速報値）
①会議参加者	42 名の首脳級を含むアフリカ 53 か国、開発パートナー52 か国、108 の国際機関・地域機関、民間セクター、NGO の代表等		約 10,000 人
②公式サイドイベント等	セミナー・シンポジウム　約 140 件 ブース展示　約 100 件		集計中
	「日本・アフリカビジネス EXPO」		約 21,000 人
	「第2回日・アフリカ官民インフラ会議」		約 500 人
③横浜市開催推進事業	国際技術協力	16 件	約 1,200 人
	ビジネス支援の拡大、女性の活躍推進	16 件	約 3,400 人
	次世代育成・市民交流の充実	336 件	約 167,000 人
	会議参加者との交流等	10 件	約 1,400 人

(2)　**市内経済波及効果**

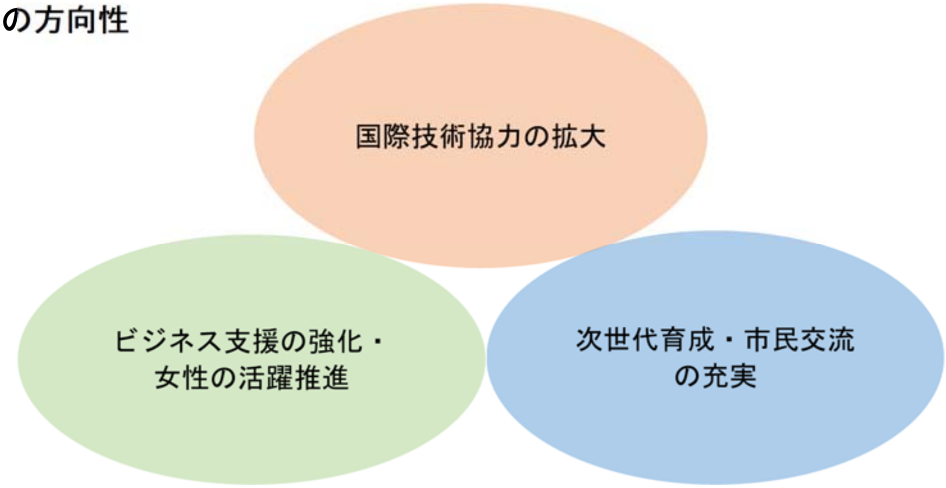
2,735 百万円（観光庁「MICE 簡易測定モデル」による速報値）

4　横浜市の取組テーマと方向性

(1)　テ　ー　マ

「アフリカと横浜、あふれる力でともに未来へ」

(2)　取組の方向性



5　会議までの横浜市の主な取組（H29～R 元年度）

(1)　国際技術協力の拡大

ア　水道分野

・JICA 研修「アフリカ地域都市上水道技術者養成」受入
（H29～R 元年度　延べ 21 か国 25 人）

・マラウイへの職員派遣
-ブランタイヤ水公社への派遣（H29～、８人）
-リロングウェ水公社への長期専門家派遣（R 元年6月～、１人）

・横浜ウォーター㈱によるナイジェリアやルワンダ等での
無収水対策プロジェクトの実施（H29～）

イ　港湾分野

・JICA 研修「港湾物流効率化（アフリカ地域）」受入
（H29～R 元年度　延べ 32 か国 41 人）

ウ　廃棄物管理分野

・環境省、JICA、アフリカ各国等と共同で設立した「アフリカのきれいな街プラットフォーム（ACCP）」を通じた廃棄物処理研修受入（H29～R 元年度　延べ 40 か国 47 名）

エ　共同声明都市コートジボワール・アビジャン自治区との取組

・アビジャン自治区において「課題解決経験共有セミナー」を開催し、
道路・水道・廃棄物管理の3つの分野における横浜の経験を紹介（H30 年4月）

(2)　ビジネス支援の強化、女性の活躍推進

ア　ビジネス支援の強化

・アフリカビジネスセミナーの継続開催
（H29～R 元年度　9回開催　延べ 303 社参加）

・「第 7 回アフリカ開発会議横浜開催　親善交流イベント」での
駐日アフリカ大使館と市内企業とのビジネスネットワーキング
（H30 年5月 13 日）

・アフリカビジネス支援に関する HP の開設（R 元年5月）

イ　女性の活躍推進

・日アフリカ・ビジネスウーマン交流プログラム研修員の受入
（H29～R 元年度　14 か国 37名）

(3)　次世代育成・市民交流の充実

ア　国際局主催事業

（ア）次世代育成

・アフリカとの一校一国（H29 年6月～R3年3月）
市立小中学校等 80 校が 34 か国と交流
大使の学校訪問、特別給食、青年海外協力隊経験者による授業等

・「歌って踊ろう！小中高生によるアフリカステージ開催！」
＜100 日前イベント＞
日程・会場：R 元年5月 19 日　クイーンズスクエア横浜
内容：「アフリカとの一校一国」の交流・練習成果の発表を行うとともに、
高校生がアフリカのグループとコラボレーションし、ダンスや音楽を披露

・アフリカ開発学生会議 in 横浜＜100 日前イベント＞

日程・会場：R 元年5月 20 日パシフィコ横浜会議センター
内容：現在のアフリカが抱える課題について、
大学生等（16 大学 60 名）が約半年間かけて議論して
きた研究成果の発表を行い、TICAD7に向け政策提言

（イ）市民交流

・野口英世フェア＆TICAD7スタンプラリー（H30 年 11 月 17 日）来場者数 約 300 名

・「私とアフリカ-from Yokohama」写真募集、動画制作、パネル展
（H30 年 11 月 30 日～R 元年9月８日）応募枚数 102 枚

・学ぼう！感じよう！"アフリカ"ビジネスセミナー＆体験型
ワークショップ（H30 年 12 月 15 日）
参加者数：ビジネスセミナー約 60 名、イベント約 200 名

・1　day for AFRICA【神奈川県ユニセフ協会共催】
（R 元年6月 16 日）来場者数　980 名

・アフリカ月間 2019
8月に、市内各所で 60 以上のアフリカ関連イベントを実施

・一駅一国運動　アフリカトラベル・スタンプラリー
（R 元年7月 24 日～8月 31 日）　参加者数　約 23,900 人
・大型イベントでのブース出展、ステージ等
－ザよこはまパレード（R 元年5月３日）
－今のアフリカ（H30 年6月 16 日～17 日、R 元年5月 25 日～26 日）
〔駐日 38 か国大使館が一堂に会し、アフリカ文化を紹介〕
－横浜開港祭(H30 年6月１日～２日、R 元年6月１日～２日）
－よこはま国際フェスタ（H29 年 10 月７日～９日、H30 年 10 月６日～８日）
－新横浜パフォーマンス(H29 年 11 月 21 日、H30 年 11 月３日～４日）　等

イ　区局実施イベント（H29～R 元年）

18 区 12 局1委員会　119 事業

ウ　TICAD7横浜開催連携事業（H30 年8月～R 元年9月）

市民や企業等の皆様にアフリカに関連するイベントを実施していただき、TICAD7横浜開催の機運を盛り上げ。 R 元年8月 31 日現在 68 事業認定

(4)　その他

ア　危機管理・施設管理

・横浜市危機管理基本計画の策定（H31 年3月）
・警戒体制強化（全区局、R 元年7月１日～8月 31 日）
・テロ対策訓練の実施（R 元年7月 31 日）
・横浜市警戒本部警備計画、各区局警備計画の策定
（R 元年8月）
・会場周辺施設の管理強化（施錠や点検・巡回等による安全確保）
・街の美化推進、道路清掃、放置自転車撤去、各区局管理用地・施設管理
（草刈、樹木剪定、施設補修）

イ　交通規制に係る広報

・横断幕、立て看板の設置（R 元年7月 25 日～8月 31 日）
・地域住民・事業者への説明（3回実施）
・関係団体への説明（4回実施）
・横浜市営バス車内広報ポスター（R 元年8月３日～8月 30 日）

ウ　プロモーション

(ア) メディア
・神奈川新聞とテレビ神奈川特別企画、
ジャパンタイムズ、広報よこはま等への掲載
(イ) 広報物制作
・TICAD7 公式ロゴデザイン
・ウェブサイト（日・英・仏）開設

City of Yokohama
Yokohama: Sharing passion for the future with Africa
Welcome to Yokohama!

・プロモーション動画
・リーフレット
PRリーフレット（日・英・仏）3万部、
小中学生向けリーフレット 23 万部、
イベントガイド(H30 年、H31 年)1万4千部、
アフリカ月間ガイド1万部
・各種ポスター、PR ステッカー、のぼり　等

(ウ) ノベルティ制作
ペン、付箋、うちわ、コースター、缶バッジ、バッグ等
(エ) はまっ子どうし The Water TICAD7 ボトル配布
(オ) まちの装飾
大型ポスター、フラッグ、横断幕、懸垂幕、カウントダウンボード等の掲出
(カ) 交通機関を活用した広報
ラッピングバス、デジタルサイネージ、車内吊りポスター、アドトレイン等
(キ) アフリカ応援＆SDGs推進キャンペーン（国連 WFP 協会共催）
(ク)「私とアフリカ-from Yokohama」
市民から募集した写真で PR 動画制作、パネル展示

６　会期等における横浜市の主な取組

(1)　国際技術協力の拡大

ア 「アフリカのきれいな街プラットフォーム(ACCP)」第2回全体会合への参加

日程・会場：8月 26 日　はまぎんホール　ヴィアマーレ
27 日　パシフィコ横浜　展示ホール B

概要：きれいな都市の実現に向けた持続可能な廃棄物管理をテーマとする会合のハイレベルセッションで、本市のごみ分別、食品ロスやプラスチック対策の取組を紹介
主催：環境省、JICA、横浜市、UNEP、UN-Habitat
参加者数：約 400 人

イ　第2回「日・アフリカ官民インフラ会議」への参加

日程・会場：8月 27 日　パシフィコ横浜　展示ホール C
概要：「持続可能な都市の実現」をテーマとしたセッションで、本市の鉄道ネットワーク整備と一体となったまちづくりや都心部強化の取組について発表
主催：国交省、アフリカ・インフラ協議会、JICA
参加者数：約 500 人

ウ　横浜 PR ブース出展

日程・会場：8月 27 日～30 日　パシフィコ横浜　会議センター3階
概要：水道局のアフリカへの国際技術協力の取組、温暖化対策に関する取組等、横浜市の施策等を展示

エ　プラスチックごみ対策ブース出展

日程・会場：8月 27 日～30 日　パシフィコ横浜　展示ホール A
（メディアセンター内）

概要：横浜市のプラスチックごみ対策等の取組を展示

(2) ビジネス支援の強化、女性の活躍推進

ア　「日本・アフリカビジネス EXPO」ジャパン・フェアに横浜市ブース出展

日程・会場：8月 28 日～30 日　パシフィコ横浜　展示ホール D

概要：「住みたい街ナンバー1の横浜から発信するライフスタイル」をテーマに、市内中小企業10社の製品・技術・取組の展示や、ビジネスに関連した横浜市の取組を紹介

主催：JETRO

イ　シンポジウム「女性と少女が変えるアフリカの未来」
～ビジネスを通じた社会改革の可能性～の開催

日程・会場：8月 28 日　パシフィコ横浜　展示ホール B

概要：基調講演及び社会企業家によるパネルディスカッションを通し、女性・少女のエンパワメントについて議論

主催：JICA、横浜市、外務省

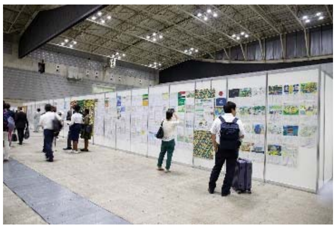
参加者数：約 300 人

(3) 次世代育成・市民交流の充実

ア　「アフリカと横浜、あふれる力でともに未来へ」展

日程・会場：8月 27 日～30 日　パシフィコ横浜　展示ホール B

概要：「輝く未来を担うアフリカと横浜の子どもたちの交流」をテーマに、
「アフリカの子どもたちが描く環境絵日記」約 300 点
「都筑・ボツワナ交流児童画」約 800 点を展示



【以下「(4) 会議参加者との交流等」を参照】

イ　市内大学生等によるボランティア活動（8月 24 日～30 日）

ウ　コートジボワール共和国首相議場演説での桜岡小児童による歓迎（8月 28 日）

エ　子どもたちによる各国首脳のお出迎え（8月 28 日）

オ　総理・市長共催レセプションでの若者応援事業 OB 高校生によるボランティア活動（8月 28 日）

カ　第3回野口英世アフリカ賞受賞者歓迎式典での文庫小児童による歓迎（8月 31 日）

(4) 会議参加者との交流等

ア コートジボワール共和国首相　市会歓迎行事

日程・会場：8月 27 日　横浜市会本会議場ほか

概要：・コートジボワール共和国のアマドゥ・ゴン・クリバリ首相をお迎えして、本会議場での演説を実施
・桜岡小児童の演説傍聴と花束贈呈
・市長・市会代表者との懇談会等を開催

イ 会議参加者との個別会談

・ブルキナファソ大統領（8月 28 日）
・モザンビーク共和国マプト市長（8月 28 日）
・世界銀行グローバルディレクター
（都市・防災・強靭性・国土開発）（8月28日）

ウ 子どもたちによる各国首脳のお出迎え

日程：8月　28　日

概要：戸部小児童とボーイスカウト横浜第 132 団の子どもたちが会議参加者をお迎え

参加者数：約 80 名

エ 総理・市長共催歓迎レセプションの開催

日程・会場：8月 28 日　横浜ロイヤルパークホテル　鳳翔

概要：・アフリカ各国首脳、国際機関代表等が参加
・若者応援事業 OB 高校生によるボランティア活動

オ 総理夫人主催配偶者プログラムへの実施協力

日程・会場：8月 29 日　三溪園

概要：アフリカ各国首脳配偶者との意見交換（「ファーストレディ」としての役割について等）及び日本文化紹介などのプログラム

参加者：安倍総理大臣夫人、林市長、
アフリカ各国首脳配偶者（12 か国）

カ 市内観光の案内（専用デスク設置）

日程・会場：8月 28 日～29 日　パシフィコ横浜　会議センター2階

概要：観光情報の提供、案内等を実施

キ 市内大学生等によるボランティア活動

期間：8月 24 日～30 日

概要：市内大学生を中心とする学生ボランティアは会議運営をサポート、市民ボランティアは会場周辺の案内等を通じて横浜の魅力を発信
中学生が ACCP 全体会合に横浜ジュニア英語ボランティアとして参加

参加者数：学生ボランティア 238 名、市民ボランティア 59 名、中学生ボランティア 20 名

ク　第3回野口英世アフリカ賞受賞者歓迎行事

日程・会場：8月 31 日　横浜市長浜ホール、旧細菌検査室、
　　　　　　　　　　旧長濱検疫所一号停留所ほか

概要：野口博士にゆかりの地である金沢区の長浜で受賞者歓迎式典、視察等を実施

参加者数（歓迎式典）：金沢区選出市会議員、文庫小児童等　約 60 名

(5) 危機管理・施設管理

ア　横浜市警戒本部体制の確立

期間：8月 26 日～31 日

概要：各国・地域からの参加者の来浜に合わせ、危機管理体制を一層強化するために、警戒本部体制を確立

構成：西区、中区、総務局、国際局、文化観光局、健康福祉局、医療局、消防局、財政局、環境創造局、都市整備局、道路局、港湾局

責任者：総務局危機管理室長

イ　横浜市現地警戒本部の設置

期間：8月 26 日～31 日

概要：会場であるパシフィコ横浜の会議センター内に現地警戒本部を設置

構成：総務局、国際局、医療局、消防局

責任者：総務局危機管理室緊急対策課安全支援担当課長

ウ　医療救護体制の確立

期間：8月 28 日～30 日

概要：会場であるパシフィコ横浜会議センター内に現地医療本部・救護室を設置

関係機関：医療局、消防局、医療機関（市民総合医療センター、みなと赤十字病院、市民病院、けいゆう病院、済生会横浜市南部病院、昭和大学横浜市北部病院）

対応実績：救急搬送：4件、救護室利用：5件　※その他医師による往診1件

【参考】

１　「第７回アフリカ開発会議横浜開催推進協議会」概要

設　　立：平成 30 年8月 23 日　県内 61 団体

会　　長：横浜市長

副 会 長：横浜商工会議所会頭、(一社)神奈川県経営者協会会長、神奈川県議会議長、横浜市会議長、日本アフリカ友好横浜市会議員連盟会長

特別顧問：神奈川県知事

顧　　問：神奈川県選出国会議員有志

２　「第７回アフリカ開発会議横浜開催推進本部」概要

設　　立：平成 29 年9月 11 日

統括本部長：渡辺副市長

本 部 長：平原副市長、小林副市長、荒木田副市長

参　　与：危機管理監

本 部 員：技監、区局長、温暖化対策統括本部長、会計室長

目　　的：庁内の横断的な連携を図り、全庁的な取組を推進する。

ワーキンググループ：

①危機管理　②プロモーション　③施設管理　④国際協力・ビジネス交流
⑤次世代育成・市民交流　⑥女性活躍推進